

〈教育実践研究〉

地域を見つめ、地域とふれあい、地域を大切にする子の育成

—小学校4年社会科の実践を通して—

大津隆*・植田真帆**

1. 本研究の目的

本実践研究の目的は、生活基盤である地域を素材とし、文化財や年中行事を受け継ぐ活動に取り組んできた身近な人々と児童が関わる機会を設定することで、「地域を見つめ、地域とふれあい、地域を大切にする子どもの育成」を目指す社会科の単元を開発し、そのような地域と関わる授業実践の意義や課題を明らかにすることである。

2. 小学校学習指導要領の趣旨を踏まえた地域学習

2.1 小学校4年生の社会科学習

小学校社会科の学習では、社会との関わりを意識して課題を追究したり解決したりする活動を位置付けた学習過程を工夫し、「主体的・対話的で深い学び」を実現するよう授業改善を図ることが必要である。

小学校社会「第4学年の目標」のうち、地域に関する学習に特に関係する部分に下線を引いた。小学校4年生社会科では、自分たちが住む都道府県の様子について、学習の問題を追究・解決する活動を展開することが中心になっている。

社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 自分たちの都道府県の地理的環境の特色、地域の人々の健康と生活環境を支える働きや自然災害から地域の安全を守るための諸活動、地域の伝統と文化や地域の発展に尽くした先人の働きなどについて、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。
- (3) 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

小学校学習指導要領の社会科「第4学年の内容」のうち、「地域の伝統と文化や地域の発展に尽くした先人の働き」に関する事項については、以下のように示されている。

* 愛知教育大学非常勤講師、** 東海学園大学スポーツ健康科学部講師

(4) 県内の伝統や文化、先人の働きについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 県内の文化財や年中行事は、地域の人々が受け継いできたことや、それらには地域の発展など人々の様々な願いが込められていることを理解すること。

(イ) 地域の発展に尽くした先人は、様々な苦心や努力により当時の生活の向上に貢献したことを理解すること。

(ウ) 見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組などに着目して、県内の文化財や年中行事の様子を捉え、人々の願いや努力を考え、表現すること。

(イ) 当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目して、地域の発展に尽くした先人の具体的事例を捉え、先人の働きを考え、表現すること。

そして、上記の内容(4)の取り扱いについては、「県内の主な文化財や年中行事が大まかに分かるようにするとともに、それらの中から具体的事例を取り上げること」となっている。

このような小学校学習指導要領社会科の目標や内容の取り扱いを踏まえ、研究対象校が所在する地域の歴史と現在の状況および在籍する児童の実態等に即して、以下のような社会科の単元を構想した。

2.2 地域学習の単元構想

研究テーマは「地域を見つめ、地域とふれあい、地域を大切にする子の育成」である。小学校4年生社会科の地域学習の単元を構想した。

単元①「昔から続いている行事」 文化財や年中行事を受け継いできた地域の人々の取組みについて児童が体験的に学ぶ単元。

単元②「郷土に伝わる願い」 地域に残る文化財や行事について児童が調べ、行事や文化財を守るための工夫や努力を取材して先人の願いや努力について考えることを通し、これからの地域のあり方について考える単元。社会的な思考・判断・表現にかかわる学習活動とその評価の一体化について検討する。

本稿では、単元「昔から続いている行事」については、児童の学習の様子を報告し、単元「郷土に伝わる願い」については、社会的な思考力・判断力・表現力を伸ばす社会科学学習としての授業デザインと評価について詳述する。

3. 社会科単元「昔から続いている行事」

3.1 単元構想

小学校4年社会科単元「昔から続いている行事」を次のように計画した。

研究テーマは「地域を見つめ、地域とふれあい、地域を大切にする子どもの育成－4年社会科「昔から続いている行事」の実践を通して－」である。

1 テーマ設定の理由

変化の激しい社会では様々な問題点があふれ、混迷した社会となっている。そんな社会に対応するためには、社会的現象を単に「知る・わかる」ではなく、その背景をふまえた上で自分の考えを形成し、社会と積極的に関わる態度を育成していく必要がある。そこで、社会科の授業を通して、社会的現象と真剣に向き合い、自分の考えをしっかりとち、友だちと交流して深め、社会参画ができる子の育成を目指していきたい。そのために、地域教材を開発し、子どもたち一人一人に確かな考えをもたせ、他者と関わり合いながら学びを深めていく。地域教材は子どもたちにとって身近であり一人一人の問題意識に応じた追究活動が展開でき、さらに、先人や伝統の担い手の思いや願いを知ることで、地域への愛着を育み、地域のために行動しようとする実践力を養うことができる。

2 研究のねらい

- (1) 文化財や行事に対して自分なりの考えをもって追究を深めていく子
- (2) 地域の人々の思いを知り、地域を大切に守っていかうとする子

3 仮説

仮説1：生活の基盤である地域を素材に単元を構想することで、教材を身近なものとして感じ、自ら課題意識をもって追究することができるだろう。

仮説2：地域のために活動する身近な人と関わる機会を設定することで、自分の考え方を広げたり深めたりでき、自分が住んでいる地域に対して思いを高めることができるだろう。

4 研究の手立て

以上の仮説を検証するため、3点の手立てをとる。

- (1) 子どもたちの生活基盤である地域を通して子どもたちの思いを生かした単元を構想する。(仮説1)
- (2) 単元に関する資料の掲示など学習環境を整え、一人調べを支援する。(仮説1)
- (3) 追究してきたことをもとに、地域のために活動する身近な人とのかかわりを設定する。(仮説2)

5 指導計画(12時間完了)

- | | |
|----------------------------|-----|
| ①知立市に残る行事、文化財〈地域を見つめる〉 | 2時間 |
| ②来迎寺学区の歴史〈地域を調べる〉 | 6時間 |
| ③行事や文化財を守るための苦労や努力〈地域にふれる〉 | 1時間 |
| ④わたしたちの地域〈地域を考える〉 | 2時間 |

3.2 実践

(1) 知立市に残る行事、文化財〈地域を見つめる〉

単元の導入にあたり、普段何気なく見ている市内や学区を改めて見つめ直すことで子どもたちの意識の掘り起こしを行い、知識の共有をした。

まず、子どもたちに地域に残る行事や文化財について、見たこと、聞いたことのあるものを挙げさせた。これまで学習してきた明治用水など、昔の人たちによって残されているものを考えていった。

次に、代表的な知立まつりの写真やDVDを鑑賞した。ほとんどの子どもが実際に行ったことがなく興味深く様子を見ていた。大きな山車を人力で持ち上げ、坂を下る場面では人々の掛け声や迫力に歓声があがった。こんなに力強いまつりだったのかと、多くの子が驚いていた。

その後、白地図を用意し行事が行われる場所や、文化財が残る場所を色ぬりした。色ぬりが進むにつれて明らかになっていく地域の様子に子どもたちは驚きの声をあげていた。(図1)

旧東海道や鎌倉街道にまつりや旧跡が集中しており、自分達の学区を囲むようにして残されているこ

とがわかった。「なんだか、すごい宝物があるみたいだね」と、嬉しそうな表情を浮かべる児童が多くいた。

(2) 来迎寺学区の歴史〈地域を調べる〉

子どもたちが見つけた来迎寺学区への気づきは、「文化財などの旧跡が集中している」というものであった。その中で「旧東海道」「鎌倉街道」「在原業平」「かきつばた」がキーワードとして出された。その考えを拾い上げ、「知立市や来迎寺学区にどんな関係があるのかな?」と投げかけた。「うーん。業平はえらい人じゃないかな。有名だし・・・。」「かきつ姫公園は業平と関係あるのかな。」とつぶやく子ども。断片的な知識はあるものの、その始まりや関係には、はっきりとした答えが出ないため、考えが揺れているのが伺えた。



図1 文化財を色づけした地図

この後、一人ひとりの気づきから、それぞれの探究課題を決め、資料等を読み直した。

その後、各自で旧跡について簡単にまとめたものを持ち寄り、歴史マップを作成し、分かったことを発表し合い、さらなる課題を検討することにした。個々のまとめを歴史マップ上にのせていくと、旅に欠かせない馬（馬市跡）や宿（本陣跡）に関係する旧跡が多くあり、交通の要所であったことがわかった。「昔の絵に三河八橋が描かれているね」と、かつての東海道を再現するようにマップづくりを行った。

調べを進める中で、「今、かきつばたは病気で咲いていない」「治すために、土や池をきれいにしていた」「松並木を掃除している人もいるみたい」と、現在の様子や美しいかきつばたやきれいな松並木を保つために活動する人がいることも明らかになってきた。

幸い本学級に祖父が文化財を守る活動に参加しているという児童がおり、さっそくお話を聞いてみようということになった。

(3) 行事や文化財を守るための苦労や努力〈地域にふれる〉

子どもたちは実際に地域で活動している人々の存在やその活動の様子に大きな興味をもった。そこで、児童の祖父であり観光ガイドボランティア、さらには八橋旧跡保存会でも活動されているHさんをゲストティーチャーとして招き、お話を伺う機会を設けた。

ここでは、歴史に関することだけでなく、地域で活動する中での思いを伝えてもらうことで、自分の考えを深めたり広げたりすることができた。お話の中では、地域の宝物であるかきつばたを多くの人に知ってもらうために、冬場も手入れをしたり、元気にガイドできるように体力づくりを行ったり、子どもたちが知らなかった努力があることがわかった。

お話の中では、地域の宝物であるかきつばたを多くの人に知ってもらうために、冬場も手入れをしたり、元気にガイドできるように体力づくりを行ったり、子どもたちが知らなかった努力があることがわかった。

授業感想では、「町の宝物である、かきつばたや旧跡は守っていこうとする人たちがいるから今もきれいなままでいられる」というかきつばたや旧跡を大切にしていこうとする思いを話す子どもが多くいた。以下は児童AがHさんに宛てたお礼の手紙の抜粋である（下線、筆者）。

きれいなかきつばたを守るために冬も池に入るなんて本当にたいへんな仕事だということがわかりました。みんなに愛されてさいている花なんだなあと思いました。町のたからもののかきつばたや旧跡をこれからも大切にしていきたいと思います。今、総合でエコ活動をしているので、ゴミ拾いとか私もなにか地域のためにできることをしていきたいと思います。

かきつばたを「みんなに愛されている花なんだなあ」と表現しており、地域で活動するHさんの話を聞くことで、自分の思いを深めている様子が伺える。また、「これからも大切に」と書いていることから、地域にある思いを守り続けていきたいという思いが表れている。さらに、「ごみひろいとか私もなにか地域のためにできることをしていきたい」と述べている。この言葉には、地域で活動する方の思いに触れ、自分にできることを考え実践していこうとするAの前向きな思いが表れている。

(4) わたしたちの地域〈地域を考える〉

Hさんのお話を聞き、地域の人たちの努力でかきつばたや旧跡が守られ、残されてきたことがわかった。身近な題材を追究する中で、気づかずにいたことに目を向け、新しい発見をすることができるようになった。授業感想には「これからも大切にしたい」という思いだけでなく、「大切にしていくなために何をするか」という視点で話をする子どもが多く見られた。

3.3 成果

(1) 仮説1について

身近な題材を設定したことで自分の思いや考えを広げることができた。旧跡のパンフレットや地域の民話集を活用したり、歴史マップを作成し、自らの調べを視覚的に振り返ったりすることで、自分なりの課題をもって一人調べを進めることができたと考ええる。

(2) 仮説2について

地域の身近な人との関わりを設定したことで、新たな地域に対する視点を得て驚きや喜びを感じ、生き生きと追究した。人の思いを通して、地域をとらえ直していくことで、自分の見方・考え方を広げたり深めたりすることができた。さらに、個々の気づきや思いを伝え合うことで、多様な見方があることに気づき、視点を広げて考えることができた。

以下は授業後のAの感想である。

歴史マップづくりが楽しかった。来迎寺学区は古くから残っているものが多いけど、じまんしたくなる気持ちになった。たくさんの人に知ってもらいたいと思う。みんなに大事にされてきたものをこれからも大切にしていきたい。

Aは「自慢したくなる気持ち」「たくさんの人に知ってもらいたいと思う」と書いている。追究していく中で得たものだけでなく、地域を大切にする思いやその工夫、努力を知って、さらに「これからも」大切にしていきたいと願うAの強い思いが込められている。ここまでの追究で、活動する人々の思いに迫ることができたからこそその思いである。

4. 社会科単元「郷土に伝わるねがい～残したいもの伝えたいもの～」

平成29年に新学習指導要領が示され、児童生徒の学びの改善を実現する各教科の指導の方向性が明らかになった。「指導と評価の一体化」の観点から考えると、この指導の方向性と一致する学習評価が求められている。思考力、判断力、表現力等の育成に焦点を置いて、児童生徒の学びの改善を簡潔に述べるならば、各教科の特質に応じて、見方・考え方を働かせ、各教科で考えたり判断したり表現したりする学びを充実させるということになる。

学習指導要領解説総則編では、このような学習活動において、思考・判断・表現の過程には次の3つがあるとされている。

- ・物事の中から問題を見だし、その問題を定義し解決の方向性を決定し、解決方法を探して計画を立て、結果を予測しながら実行し、振り返って次の問題発見・解決につなげていく過程
- ・精査した情報を基に自分の考えを形成し表現したり、目的や状況等に応じて互いの考えを伝え合い、多様な考えを理解したり、集団としての考えを形成したりしていく過程
- ・思いや考えを基に構想し、意味や価値を創造していく過程

「思考力、判断力、表現力」の評価に当たっては、①問題・課題の状況に関する知識・技能の習得の確認、②答え（作品）を導き出すために必要な質の高い知識・技能の習得の確認、③質の高い知識・技能を活用して答え（作品）を導き出すことができたかを確認することが必要になる（大杉，2018）。

そこで、前述した社会科単元「昔から続いている行事」を発展させ、社会的な思考力・判断力・表現力を伸ばす社会科単元を構想し、単元の評価計画を立案した。

(1) 単元名 郷土に伝わるねがい～残したいもの伝えたいもの～

(2) 単元の目標 (略)

(3) 指導計画〈全15時間〉

小単元	おもな学習内容	社会的な思考・判断・表現にかかわる 学習活動
1 地域に残る行事や文化財 《地域を見つめる》 2 時間	○市内に残る行事や文化財を調べる。 ・知立まつり ・知立神社 ・旧東海道 ・一里塚	・市内に今も残り伝わる歴史的な行事や文化財、史跡などを調べる。 ・概要を学習メモとしてまとめておく。 ・行事や文化財の名称や位置、いわれ。 ・事実だけでなく感想も記録する。
2 来迎寺学区の歴史 《地域を調べる》 4 時間	○来迎寺学区の歴史を調べる。 ・在原業平 ・無量寿寺 ・根上がりの松 ・鎌倉街道 ・松並木 ○発表会 ○歴史マップをつくる。	・前時に作成した学習メモをもとに自己の追究課題を決める。 ・取材の計画を立てる。 ・地域の行事や文化財を取材し、取材メモにまとめる。 ・発表会を開いて情報を交換する。 ・歴史マップをつくる。

3 行事や文化財を守るための工夫や努力 《地域とふれあう》 6 時間	○行事や文化財を守るための工夫や努力を取材する。 ○Hさんの話を聞く。 ・観光ガイドボランティア ・八橋旧跡保存会 ・保護委員	・地域を守る人の代表としてHさんにインタビューする。 ・知りたいことは何か、インタビューカードにまとめておく。 ・自分の追究視点に合わせたインタビュー。 ・1 質問につき 1 枚。
	○学習のまとめ ・「地域歴史かわら版」をつくる。 ・発表会	・「地域の歴史かわら版」を作成する。 ・取材メモやインタビューカードをもとに地図や写真も使って工夫して、他者にわかりやすくまとめる。 ・「地域の歴史かわら版」の発表会を開く。 ・発表を聞き合って、疑問に思ったこと、さらに調べたいことを整理する。
4 私たちの地域 《地域のこれからを考える》 3 時間	○行事や文化財の今後を考える。 ・地域シンポジウムを開く。	・先人の願いや努力について考える。 ・これからの地域のあり方についてレポートにまとめ、地域シンポジウムで発表する。

(4) 単元の評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用 の技能	社会的事象についての知識・理解
地域に残る伝統や文化や、それを保護・活用している地域の人々の取り組みに関心を持ち、意欲的に調べ、地域社会の一員としての自覚を持つとともに、地域づくりに対する誇りと愛情を持つことができる。	地域に残る伝統や文化や、それを保護・活用している地域の人々の取り組みから学習問題を見いだして追究し、互いに協力して特色ある地域づくりに取り組んでいる人々の工夫や努力などについて思考・判断したことを適切に表現することができる。	地域に残る伝統や文化や、それを保護・活用している地域の人々の働きを的確に見学、調査したり、地図や年表、具体的資料を活用したりして、必要な情報を集めて読み取ったり、まとめたりすることができる。	地域に残る伝統や文化や、それを保護・活用している地域の人々の様子や地域ぐるみで協力して特色ある地域づくりに取り組んでいる地域の人々の願いや働きを理解することができる。

(5) 評価計画

小単元	評価の場	社会的な思考・判断・表現にかかわる評価基準
1 地域に残る行事や文化財 《地域を見つめる》 2 時間	○学習メモの作成	・今後の学習に役立たせるためにという点から学習メモをまとめている。 ・行事や文化財の名称や位置、そのいわれなど、要点を押さえたメモにしている。 ・事実だけでなく自分の思いをメモしている。

2 来迎寺学区の歴史 《地域を調べる》 4 時間	○取材活動 ○取材メモの作成や発表会、歴史マップづくり	・ 追究課題を決める際、学習メモを生かしている。 ・ 追究の見通しを持った取材活動をしている。 ・ 事実だけでなく、自分なりの解釈や分析した取材メモにしている。 ・ 発表会を意識したまとめになっている。 ・ 友だちの考えを取り入れている。 ・ 取材メモをもとに自分の思いが盛り込まれた歴史マップをつくっている。
3 行事や文化財を守るための工夫や努力 《地域とふれあう》 6 時間	○インタビューカードの作成やインタビューの場 ○地域の歴史かわら版の作成や話し合いの様子	・ 自己の追究視点からインタビューカードを作成している。 ・ インタビューした結果から自分の考えを構築し、それを文や写真などの資料を使って表現している。 ・ 取材メモやインタビューカードをもとに、地図や写真も使って工夫して、自分の考えを他者にわかりやすくなるようにまとめている。 ・ 事実だけでなく、自分の考えや分析、感想なども加えてまとめている。 ・ 発表を聞き合って、疑問に思ったこと、さらに調べたいことを整理している。
4 私たちの地域 《地域のこれからを考える》 3 時間	○レポートの作成やシンポジウムへの取り組みから	・ これからの地域のあり方について、これまでの学習を生かし、友だちの考えも取り入れ、自分の考えをレポートにまとめている。 ・ 自分の考えを論理的に発言している。

5. まとめと今後の課題

(1) 成果

身近な教材を取り上げたことで、子どもたちは自分との関わりの中から問題を追求し、自分の考えをもつことができた。

話し合いの場を設けることで、自分とは違った友だちの考えにふれ、多様な価値観と出会い、異なる視点や新たな発見を見つけ、自分の考えを深めることができた。

地域の人や伝統の担い手との関わり合いの場を設けたことによって、子どもたちは地域に愛着を持ち、よりよくしたいと願うようになった。

評価規準を作成することにより子どもたちに身に付けさせたい力が明確になり、社会的な思考力・判断力・表現力に関わる学習活動を工夫することができ、子どもたちにその力を身につけさせることができた。

(2) 課題

調べ学習や地域の人とのふれあいの時間など、予定より多くの時間を要した。単元の構成について、再度検討する必要がある。

個人での追究時、資料の読み取りが的確でない子がいた。また、レポート作成時、まとめ方が不十分な子がいた。すべての子どもたちに効果的な資料の読み取り・活用、まとめができるように、学習形態の工夫（グループでの取り組みなど）や、学習方法の工夫（ジグソー法など）などを検討する必要がある。

引用文献

文部科学省（2017）「小学校学習指導要領（平成29年告示）」

https://www.mext.go.jp/content/1413522_001.pdf [最終アクセス日 2024年8月31日]

大杉昭英（2018）「新学習指導要領における思考力，判断力，表現力の評価について」『平成30年7月9日 教育課程部会 児童生徒の学習評価に関するワーキンググループ 資料2-2』

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/080/siryo/_icsFiles/afieldfile/2018/10/11/1408209_3.pdf [最終アクセス日 2024年8月31日]